

## 第1回四日市市中心市街地活性化推進方策検討会議で出された意見について

- ・都心の再生・活性化は、日本のみならず、戦後、ヨーロッパやアメリカを含め世界共通の課題である。
- ・とりわけ、歴史のある文化的な積み重ねのある都市にとって、それらを継承するのか、あるいは、変化・革新をしていくのかなど、それら2つをどのように具体化させていくかがまさに活性化の戦略であるといえるのではないか。
- ・また、その戦略には、地域との協働、行政、議会を含めまちづくりの担い手達の連携が重要である。
- ・中心市街地の活性化には、まつりやイベントなど地域のコミュニティや絆づくりの場の創出を行い、他地域からの交流人口を増加させることが重要である。
- ・共創、協働がキーワードである。
- ・良い伝統は引き継ぎつつ、革新も重要である。
- ・ハード整備は、それらソフトを入れるための器として行われるべきである。
- ・集客力のある施設を中心市街地に創るというのも有効な策の一つである。
- ・施設整備は、施設が市民生活にどのように価値を生み出しているのかということが重要である。
- ・人口減少、少子高齢化と社会状況は、今後より深刻な状況になっていくという認識のもとで、これまでの四日市がそうであったように、先進的な取り組みを行うべきである。
- ・まちづくりには、地道な人間関係の構築や歴史などを知ることが重要である。市民が何を求め、機能として何が必要かということを丁寧にステップアップしていくべきである。
- ・居住をさらに増加させるために、いかに住みたくなるエリアにしていくかが重要である。
- ・四日市は、現代においても宿場町であると思っている。目的地ではないが、滞在、通過するには、利便性の高いまちであるので、そこを高めていくことが大切である。

第2回四日市市中心市街地活性化推進方策検討会議 意見まとめ

■前提

- ・総合計画及び推進計画（H26～28）で図書館の基本構想を策定することを位置付けている。
- ・経済界等からの要望活動など民間からも中心市街地・商店街の活性化に公共施設の立地が求められている。

■テーマに関すること

ムズムズ、ワクワク／楽しい、面白い／市（四日市ならではの）

■ハード・ソフトに関すること

	既にある・行われている	問題・課題	他都市事例
ハード	<p>○30万都市で公共施設・機能はそこそこ備わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館</li> <li>・文化会館</li> <li>・すわ交流館</li> <li>・博物館</li> <li>・公害と環境未来館</li> <li>・四十三（よそみ）茶屋</li> <li>・商店街</li> <li>・ムーシケ（270席の民間ホール）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツ、場所、市民を交えた運営などが課題。</li> <li>・10年、20年先を見据えた公共施設のあり方</li> <li>・都市軸としての中央通りの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せんだいメディアテーク（「メディア」をコンセプトに地域を巻き込みプログラムを展開）</li> <li>・アオーレ長岡（なかどま）</li> <li>・武蔵野プレイス（4つの機能を指定管理者が一括管理、若者や高齢者の居場所）</li> <li>・ぎふメディアコスモス（図書館中心に学校連携等々、図書館館長を公募）</li> <li>・森の交流館・十勝（森の再生、市民活動、海外からも来る研修施設）</li> </ul>
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市」</li> <li>・JAZZ フェスティバル</li> <li>・昔の映画の上映</li> <li>・映画祭準備委員会</li> <li>・こども四日市</li> <li>・毎日がバーベキュー（南勢・産地と商店の連携）</li> <li>・まちなかサポートステーション（商店街に設定、若者の就労支援）</li> <li>・あすなろう鉄道（ナローゲージ）</li> <li>・酒盛り場としてのにぎわい（商店街）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設の中でもカフェの併設など「中身の緩さ」「気軽に利用できる」</li> <li>・ネットライフサポート</li> <li>・居場所、世代ミックス</li> <li>・教養（リタイヤ層の活用）</li> <li>・くすのきパーキング上部の活用</li> <li>・花と緑（農芸高校、市民の参加）</li> <li>・港との連携、2つの文化財周辺の魅力化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちライブラリー（全国どこでも図書館）</li> <li>・魚沼市小出郷図書館（中心市街地の空き店舗を図書館に）</li> <li>・岡崎のJAZZストリート（企業からの場の提供）</li> <li>・栄ミナミ音楽祭（1年かけて準備、将来の街のあり方を地元が検討）</li> </ul>

### 第3回四日市市中心市街地活性化推進方策検討会議 意見まとめ

#### ■立地場所について

立地場所	内容
鶉の森公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視認性は良くない。</li> <li>・子どもが遊んでいる／遊んでいない。(両方の意見)</li> <li>・中心市街地の回遊性や周辺への波及について期待できる。</li> <li>・“鶉”という名前を活かし、観光資源として活用する。“Sharp Eyes”など</li> <li>・植栽等の管理が問題。薄暗い。全体のランドスケープを考える必要がある。</li> </ul>
諏訪公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視認性は良くない。</li> <li>・子どもが遊んでいる／遊んでいない。(両方の意見)</li> <li>・中心市街地の回遊性や周辺への波及について期待できる。</li> <li>・すわ公園交流館(文化財)や庭園など既存施設を活かした再整備はやりがいがある。</li> <li>・地下の構造物が課題。駐車場(振興組合所有)との調整に時間がかかる。</li> </ul>
市民公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視認性はよい。</li> <li>・ホテル、商業施設もありいい場所。</li> <li>・地下の構造物が課題。</li> </ul>
市役所前広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視認性はよい。</li> <li>・未利用で使いやすい。</li> </ul>

#### ■施設としての必要条件について

機能	内容
機能・サービス全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算規模がわからないと判断しにくい。</li> <li>・他の事例から指定管理者制度など運営を管理に任せると良くなる。</li> <li>・家でもなく、職場でもない「サードプレイスをつくろう」ということだと思う。</li> <li>・港、コンビナート、工場誘致など先進的な事に取り組んできた四日市の歴史へ考え、もう一歩進んだシンボルを考えたい。</li> <li>・ヨーロッパはカフェ、緑を上手く使って常時人が集まる、イベントが行われる空間を作っている。</li> <li>・ICTにより図書館だけでなく市民生活自体が変わる。</li> </ul>
図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の役割分担(学術的なものは大学など)。アメリカでは90%が電子図書館。</li> <li>・今後10年を考えると電子図書館を機能として持つことになるのではないか。</li> <li>・勉強する環境(スペースだけあればいい)、静かな環境、カフェがある環境(スターバックスで勉強、本を読む)。</li> <li>・利用者の立場から駐車場が足りない。</li> <li>・行政の中で図書館の方向性について検討されている事を教えてほしい。</li> <li>・TUTAYA 図書館がいい意味でも悪い意味でも注目されている。</li> </ul>
市民活動との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑被率を高める。“Edible”、食べられる果実がなる木を植えてみんなで管理をする。</li> <li>・中央通りの活用を考える。</li> </ul>

第4回四日市市中心市街地活性化推進方策検討会議 意見まとめ

■交流の仕組み・プロセスについて

<p>アクティビティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティビティについて、今ないコンテンツを掘り起こすような視点も必要ではないか。(例えば、子育ての母親の就業支援、ママ友の交流支援など)</li> <li>・多文化共生も一つのアクティビティとして入れたらどうか。</li> <li>・中心市街地のまつり・イベントに出る団体の待機場所や休憩場所を設置したい。</li> <li>・夜遅くの音楽・JAZZの練習や演奏などに使える。</li> <li>・統的なまつりでも、リオのカーニバルなどのように魅力的な祭りは毎年内容を少しずつ変えている。大四日市まつりも、春バージョンがあってもいい。</li> </ul>
<p>空間・運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜遅くまで使える。</li> <li>・屋外のパブリックスペースと連担して使える。</li> <li>・TSUTAYA 図書館は、図書館の周りにライフスタイルに関するショップ等が併設され、目的の違う人が融合している。</li> </ul>
<p>担い手</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成功している事例にはキーパーソンがいる。</li> <li>・キーパーソンと事業を結びつける仕組み。</li> <li>・地元には事業を担える人がいないのではないかと(一昨年の検討委員会と同じ議論をしている)。</li> <li>・JC 人脈は使えるのではないかと。</li> <li>・アクアイグニス立花氏、CCCの増田氏、メディアエッグの藤田氏、電子母子手帳をやっているMTIなど。</li> </ul>
<p>事業手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PFIでやる場合に施設の質やサービスの質が落ちる場合があるため、その点は気をつけなくてはならない。</li> <li>・西尾ではサービスプロバイダ方式によるPFIを導入。</li> <li>・オガール紫波の公民連携、地元企業の活用、マスターアーキテクト。</li> <li>・ファンドを導入する場合には、まちの長期イメージを作成しそれにふさわしい機能を導入する事業に対して出資する。</li> </ul>
<p>場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴の森公園は、近鉄四日市駅からみると視認性は悪いが比較的近く、交流拠点を設置するポテンシャルはある。</li> </ul>